

年 度 評 価 シ ー ト

課名 文化振興課

施設の名称 静岡科学館	指定管理者名 (公財) 静岡市文化振興財団
1 履行状況	
<p>業務仕様書及び事業計画書に従って概ね適切に履行されている。</p> <p>(1) 維持管理業務</p> <p>展示物をはじめ、空調設備、エレベーター、防火シャッター、券売機等の保守点検及び館内清掃業務について、専門知識を有する第三者委託により実施し、各業務とも事業計画に従って適切に行われている。</p> <p>また、館内照明器具等 21 件の修繕を実施し、来館者が安全で快適に利用できるよう務めている。その他、ビル全体での管理となる消防設備、機械警備等保守点検業務等については、ビル管理組合と連携し適正に行われている。</p> <p>(2) 施設利用者数</p> <p>平成 24 年度の利用者数は 260,680 人 (大人 75,022 人、小人 185,658 人) で、目標入館者数 245,000 人を 15,680 人上回り、達成率は 106.4%となった。開館 9 年目にして高い入館者数を維持していることから、常に新しい体験を提供しリピーターを飽きさせない指定管理者の工夫や努力がうかがえる。</p> <p>(3) 事業実施状況</p> <p>科学館の特徴である参加体験型の展示物の利用促進や、来館者とのコミュニケーションに重点を置いた展示体験支援や展示解説のほか、企画展、各種教室やワークショップ等のソフト事業については、概ね事業計画のとおり実施されており、目標値を大幅に上回る参加者を得るものも多く良好に実施された。</p> <p>企画展「かがくの色あそび展」の関連事業として、まず科学館で天然の鉱物を使い絵の具を作ることを選び、美術館で実際にそれらが使われた古美術作品を鑑賞するといった科学的知識の下に美術を体験するワークショップを行った。今までにない新しい切り口での連携事業であり、異分野協働の好例として J S T (独立行政法人科学技術振興機構) の発行誌に掲載されるなど、科学に興味を持つものだけでなく美術愛好家にも科学を身近に感じ関心を高める機会を広く提供するなど意欲的な活動が高く評価できる。</p> <p>主な事業の参加者数は以下のとおり。</p> <p>① 企画展「かがくの色あそび展」(1/12~2/17) 45,402 人 (目標値 : 36,000 人)</p> <p>② サイエンスショー (全 20 回) 7,040 人 (目標値 : 5,600 人)</p> <p>③ わくわく科学工作 (全 20 回) 5,276 人 (目標値 : 3,600 人)</p> <p>④ プレミアムサイエンスショー (全 6 回) 2,110 人 (目標値 : 840 人)</p> <p>⑤ おもしろ科学フェスティバル (3/24) 1,489 人 (目標値 : 1,200 人)</p> <p>⑥ 自由研究相談会 (全 7 回) 237 人 (目標値 : 220 人)</p>	

<p>⑦ サイエンスフェスティバル in る・く・る (8/4～12 4日間) 12,046人 (目標値：12,000人)</p>
<p>2 市民(利用者)からの意見・要望の内容とその対応状況の評価(クレーム対応等)</p> <p>利用者からの意見・要望に対しては概ね適切な対応がとられている。即時の対応が困難である要望に対しても前向きに検討しており、良好な対応がなされているといえる。</p> <p>[具体的な意見・要望と対応状況]</p> <p>(職員の対応について)</p> <p>意見等：職員の状態が悪い。</p> <p>対応：意見の館内周知を図るとともに、担当及び全職員に対して接客の意識・方法について再度徹底を図った。</p> <p>(来館者のモラルについて)</p> <p>意見等：子ども会などで席を荷物で取っているグループがいて迷惑だった。</p> <p>対応：昼食時間帯を中心に、巡回を強化して対応した。</p>
<p>3 市民(利用者)へのアンケートや満足度調査の状況評価</p> <p>(1) 利用者満足度調査</p> <p>主催事業の内容に関するアンケート調査を実施しており、主なものとしてサイエンスフェスティバルでは96%、企画展では97.9%が「たいへん楽しかった」「楽しかった」との回答があり、概ね市民の期待に答える事業の展開が図られているといえる。</p> <p>(2) 市民アンケート</p> <p>(公財)静岡市文化振興財団が指定管理を受託する文化施設等で実施している市民アンケートによると、静岡科学館の認知度は66.4%、利用度は34.8%であった。認知度は17の文化施設等の中で2番目に高く、広く施設の存在が知られていると言える。利用度は34.8%にとどまったが、施設の性質上主な来館者が子どもであるため、他館を利用したアンケート記入者の年齢層と重ならなかったことが原因と考えられる。</p> <p>(3) その他の調査</p> <p>施設内に投書形式の「利用者の声」を設置し、施設利用者に随時、意見・要望や施設満足度について記載し投函してもらい調査している。各項目の「満足」「やや満足」の構成比は下記のとおり。</p> <p>①職員の応対 74.5% (前年度 75.1%)</p> <p>②清掃整理整頓 79.1% (前年度 76.2%)</p> <p>③案内表示・掲示板 72.3% (前年度 68.1%)</p> <p>④開館時間・開館日 71.5% (前年度 66.1%)</p> <p>⑤空調音響照明 76.4% (前年度 66.8%)</p> <p>主な来館者層である子どもからの端的な意見も多い中、全般的に概ね満足という結果から、指定管理者の努力がうかがえる。今後も引き続き利用者の満足度を高める努力を継続されたい。</p> <p>また、科学館運営協議会を設け、外部からの意見・要望を積極的に取り入れる体制が整えられており、より良好な管理運営を目指している点は評価できる。</p> <p>なお、平成24年度は、JST(独立行政法人科学技術振興機構)支援事業によるネットワーク形成先進的科学館連携型の一環として、無作為抽出した市内在住の18歳以上の男女1,150人と、市内に所在する中学校、高等学校に通う生徒350人を対象に、科学技</p>

術の事象や政策、科学の普及活動に対してのアンケート調査を実施し考察を行っているため、今後の科学館事業へ反映されることを期待したい。

4 指定管理者の経理状況の評価

指定管理業務の収支状況については、概ね予算のとおりにより執行されており良好である。また、平成 22 年度より引き続き J S T (独立行政法人科学技術振興機構)による先進的科学館連携推進事業に採択され助成金を得るなど、自主財源の確保にも努めている。

支出についても、消耗品費及び印刷製本費などを中心に事業費を節減し、限られた予算の中で効果的な業務実施に努めている。

5 総合的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

施設の管理運営全般に関しては、事業計画に従い良好に実施されており、多彩なソフト事業を行うだけでなく、対話型のコミュニケーションを大切に、職員の研修にも力を入れ、来館者の年齢等の発達段階に応じた柔軟な対応を心がけ事業を展開するなど、指定管理者としての能力を十分に発揮している。

夏季や春季休業中の休館日を臨時開館し、子ども向けの体験型ワークショップを積極的に展開するほか、「休みの日には必ず科学イベントが体験できる」運営にこだわり、休日には必ず自由参加型の事業を実施し市民が気軽に科学技術に触れられる機会を提供することにより、開館 9 年目を終了してもなお目標を超える入館者を達成することができ、大変良好な運営を実施している。

先進的科学館連携推進事業を展開して途中で、様々な人や機関との連携を積極的に進め、大学や専門機関・企業との結びつきを強化することにより、専門的で最先端の研究に基づく内容での事業実施が可能となり、子どもだけでなく大人も満足させる事業運営が図られている。

また、様々な立場や職能を有する市民を科学普及の担い手として育成することに力を入れ、サイエンスナビゲーターにおいては目標値 840 人を超える延べ 1,324 人が活動し、科学館が育成した科学コミュニケーターが地域の各施設やイベントで活動を始めるなど、市民参画の科学館事業として一定の効果を上げていることも評価できる。

今後も、子どもの科学への興味関心を高めることに重点は置くものの、大人も学べる科学館として有料入館者の増員を図ることに努め、認知度とともに、一定の年齢層だけでなく広く市民の利用度が高まるよう努力されたい。

また、指定管理者の更新に当たっての総合評価では、文化振興ビジョンを十分に理解し、創意工夫を活かした事業展開に高評価を得ており、第 3 期の指定管理期間においても、これまで培ったノウハウや構築したネットワークを最大限活かし、現在の事業レベルを維持しつつ更なる発展を期待したい。